

人材
育成

「敦賀原子力夏の大学」 海外研修(仏国)



車窓から見た原子力発電所

去る平成20年2月2日(土)から2月10日(日)まで「平成19年度敦賀原子力夏の大学」の参加者38名の中から選抜された7名の学生が、原子力に関する国際的な見識と視野を高めるため、原子力先進国であるフランスを訪問しました。研修先はフランス原子力庁(CEA)直轄の原子力教育機関「INSTN」、稼働中の高速増殖炉「Phenix」、最新のMOX燃料工場「MELOX」などです。



福井団長(福井大学教授)と訪仏したメンバー

昨年9月の「夏の大学」以来5ヶ月ぶりの再会となる学生(県内3名、県外4名)と教員(3名)の一行は、フランス滞在の8日間、仏国の最新の技術を学び、交流を深めました。

仏国での講義や説明はすべて英語だったため、学生たちは大学における実践的な英語教育の必要性を痛感するとともに、教員たちは講義と実習が効率的に組み合わされていることに感心し、今後のカリキュラム編成等に大いに参考になると評していました。

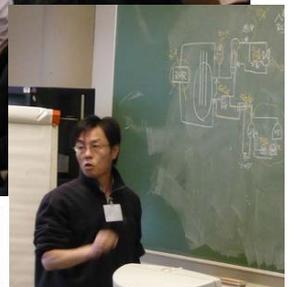
原子力教育機関のINSTNでは、原子炉物理の講義を受けました。また、教育用原子炉を用いての臨界近接実験や制御棒校正実験、パソコンを用いたPWR(加圧水型軽水炉)の運転シミュレーターを用いての実習を行いました。



原子炉物理の講義



PWR運転シミュレーション装置



事務局として随行した当推進組織の畠中マネージャー

フランス南部のアビニョンでは、高速増殖炉のPhenix発電所とMELOX工場を訪問しました。

施設内は明るくオープンな雰囲気、中で働く人たちにもさわやかさを感じられたのが印象的でした。

「敦賀原子力夏の大学」は平成20年度も実施します。多くの学生の参加を期待しています。



情報交換



高速鉄道TGVの駅にて



ワインの本場で食事

原子力関連事業者との情報交換会

3月5日、福井商工会議所で今年度に原子力関連業務従事者研修を受講した企業と県内原子力施設の保守点検業務に携わる元請企業との情報交換会が開催されました。

原子力関連業務への新規参入や、より高度な業務への参入を目指している企業は、元請企業8社から現場の実情や業務内容、技術レベルなどについて熱心に情報収集を行っていました。

この情報交換会に先立ち、日本原子力研究開発機構による「ふげん廃止措置計画の認可を受けての現況」についてオープンセミナーも開催されました。

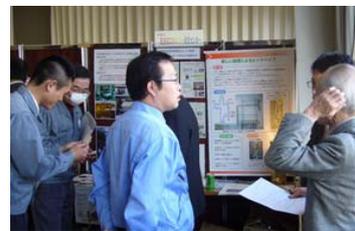


上)オープンセミナー
左)各ブースでの元請
企業との情報交換

1日工業技術センター(小浜)

2月29日、「1日工業技術センター」が、小浜商工会議所で開催されました。これは福井県工業技術センターが嶺南地域の企業に技術情報の提供や技術相談・技術指導等を行うために開いたものです。

エネ研からも企業支援制度、業務内容、研究成果等を紹介するとともに、ブースを訪れる企業と積極的に情報交換などを行いました。



エネ研の展示ブース



エネ研の取り組みを説明

科学機器利用研修

エネ研では50を超える高度な科学機器を設置し、研究機関や企業等に広く開放していますが、これらを十分利活用していただくために、その原理や操作方法についての研修を毎年実施しています。平成19年度は写真の機器を含む6つの科学機器について実施しました。(受講料は無料)

透過型電子顕微鏡 (TEM)



エネ研の誇る高性能の装置で、多くの共同研究に使用されています。右の写真は、観察したい試料の断面を削り取る装置です。

ガスクロマトグラフ質量分析計 (GCMS)



ガスクロマトグラフィーに高性能の質量分析装置がついており、匂いの分析など微量の成分であっても分析が可能です。